

一、常陸宮ご夫妻の旅行

—名古屋・岐阜—

常陸宮御夫妻はこのほど名古屋市の熱田神宮にご結婚の報告に行かれました。

モーニングと薄水色のワンピースに召しかえられたご夫妻は原田権宮司の先導で本宮へ。本殿に玉ぐしを捧げてご結婚の報告を無事終えられました。この夜、ご夫妻は長良川に伝統のうしほご覧になった。初めての華子さまは勇壮な髪がらみに興味深げなご様子でした。

また犬山市の日本モンキーセンターでは愛敬を振りまく日本ザルを相手に生物学がご専門の常陸宮さまは華子さまにやさしく説明されていました。

一、さあ、二学期

—東京・名古屋—

夏休みはもう終り。名古屋の良い子たちは中日新聞主催の「中日海洋エクスカーション」に参加、巨船「ぶらじる丸」で名古屋―神戸間の船旅を楽しみました。

一方、東京では二学期を迎える子供たちで学習塾や博物館の夏休み宿題相談所が大変な盛況です。子供たちはばかりでなく応援にかけつけたお母さんたちもねじりはちまき……。宿題の仕上げです。

九月一日は学校の始まる日。さあいよいよ二学期です。

一、消えゆく村

—福井県和泉—

福井県と岐阜県の県境に九頭竜川上流の和泉村はまったく外界から隔絶したところでした。いまその秘境に電源開発という新しい文化のツチ音が響きわたり、姿いを新たにしようとしています。湖底に沈むこの部落では、すでに沢山の人々が家をたんで去っていきましました。収穫の秋に入っても村は静まりかえっています。だが父祖伝来の土地をはなれることが出来ずにいる人もいます。

こうした中で八年越しにもみにもんだ奥越電源開発もいよいよ本格的な工事が着手されました。五百戸のうち現在残っている家は二十八戸、電源開発の人がその残った人々を説得にまわります。だが最後まで残っているようにと頑張る人。秘境におしよせた電源開発は、この土地に何をもちたのでしょうか。